

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 2 回相模原市立北市民健康文化センターの在り方検討委員会				
事務局 (担当課)		市民協働推進課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 2 5 (直通)				
開催日時		令和 2 年 1 1 月 6 日 (金) 午前 1 0 時 ~ 正午				
開催場所		相模原市緑区合同庁舎 4 階 集団指導室				
出席者	委員	6 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	4 人 (市民協働推進課長、他 3 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会  2 議題 ( 1 ) 施設の課題等の整理について ( 2 ) 施設のコンセプト、機能等の検討について  3 閉会				

主な内容は次のとおり。( は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開会

2 議題

( 1 ) 施設の課題等の整理について

事務局から資料に基づいて説明し、施設の課題等の確認を行った。主な意見等は以下のとおり。

【主な意見等】

今後の検討においては、施設を取り巻く状況や現在の利用者の声など現状としてしっかりと捉えつつも、将来に向けてどのように施設を活用していくのかなど、施設の在るべき姿について議論していきたい。

( 2 ) 施設のコンセプト、機能等の検討について

委員長の進行により資料に基づいて、施設のコンセプト及び機能等の検討をワーク形式で行った。

【主な意見等】

施設のコンセプトについて

○施設のコンセプトは今後の議論にとって大切である。他の自治体の事例等を踏まえても、3つのコンセプトを設定し、その関係性から事業等を検討すると様々なアイデアが生まれる可能性が高い。また、このコンセプトは、施設の改修や運営において踏まえてもらいたい。

順次、コンセプトの確認等を行い、「だれもが健康になれる施設」「だれもが学べる施設」という2つのコンセプトについては、概ね方向性が確認された。

3つ目の「幅広い世代がふれあえる・つながる施設」については、「ふれあい」と同義で「交流」という表現もある。

○「ふれあい」の方が、優しい表現で良いのではないか。

○まちづくり会議では、子どもから高齢者・障害者まで幅広く利用し、「交流」ができる施設になると良いという意見があった。

○「ふれあい事業」と「交流事業」では少し印象が異なるように感じる。この後の議論を踏まえて、どちらが相応しいか検討しても良いのではないか。

○今後の議論を踏まえ、どちらか一つに決定することとしたい。また、これ以降の検討においては、「健康」「学び」「ふれあい・交流」という3つのキーワードから検討を進めることとしたい。

○いずれのコンセプトにおいても、「楽しく」や「生き生き」という動機付けになる考え方が前提にある方が良い。また、人口の変化や情報通信技術の進展など、

30年後の姿を見据えて検討していきたい。

#### 施設の機能等について

施設の機能等の具体的な検討に入る前に、3つのコンセプトから施設で実施できる事業を検討したのち、全体で共有した。

#### 【主な意見等】

「学び」「ふれあい・交流」については、どちらも受け身のイメージがある。学生がサークルやゼミでの活動を地域の人に教える機会や、ICT先進国の中国や韓国からの留学生によるICT講座など、学ぶ人が教える側になる形もあるのではないかと。そのほか、ひきこもりや不登校支援などで児童・生徒が活用できる場所や、他の人が飼っているペットと触れ合う癒しの機会、ジョギングの会のようなやり方を学べるもの、中学校の部活動や大学生などがプロスポーツ選手やスポーツクラブと触れ合える機会があっても良い。

○この施設をプラットフォームとして様々な人に使ってもらい、相互作用を発生させる考え方は良いのではないかと。プロスポーツ選手を管理する栄養士による子どもの食育講座も考えられる。相模原市には、サッカー、ラグビー、アメフトのトップアスリートを抱えるクラブチームがある。地域の方にその知識や実技を教える場があっても良いのではないかと。また、普段の活動や持っている知識を地域に広めたい団体と市民が出会う場を提供することや、いじめや発達障害を抱える方などがこの施設に来れば安心できるような場所にするのも地域においては大切かもしれない。社会的弱者を分けるのではなく、海外のキャンプ場では、障害者と健常者が同じプログラムを一緒にやっている。お互いに補完し、そこから気付きもある。最近では、街中でのキャンプが流行っており、コロナ禍では身近な自然に出ていく人も増えている。始め方が分からない人を対象とした教室も考えられる。

○この施設にはプールとお風呂があるため、キャンプ場でのグランピングコースなどに組み入れられると利用者が増えるのではないかと。

○ナイトプールを楽しみ、ホールにテントを張って寝るなどお泊りキャンプ体験も考えられる。

○伝統的な文化を持っている高齢者と若者との交流の場にしてはどうか。簡単な昔ながらのことを伝えていけるような場になると良いのではないかと。また、スマートフォンやパソコンの苦手な人が60歳台から数多くいるため、図書室のような若者から高齢者まで一緒に利用できる部屋があると良い。

○相模原市やこの地域に根差した歴史や伝統的なものはあるか。そうしたものを子どもたちや次の世代に伝えていくことも考えられる。

○大沢地区では、伝統的なものとして8月のお祭りで獅子舞がある。

- 橋本地区では、ひょっとこ踊りを練習している小学校もある。
  - リニア中央新幹線の影響で住民が増えた際、その土地の文化や歴史に触れる機会があまりないのではないか。他の自治体で新・旧住民の間に軋轢が生じた例もあり、伝統文化の継承が軋轢の軽減に機能するのではないか。この施設は文化的機能も担うことが、単なるスポーツ施設とは異なる特徴的な部分である。利用者の増が目的ではなく、文化継承の受け皿としての施設も良いのではないか。
  - 子どもは昔遊び、お年寄りは今遊びを相互に学べる機会や、障害者と健常者を分けるのではなく、両者が一緒に使える施設として、泳ぎの得意な障害者から学べる機会があっても良いのではないか。また、子どもが陶芸窯を使ってお皿ではなく人形をつくる教室、一流パティシエによるお菓子教室、有名和菓子屋によるお茶会、ダイビングの資格講座、救命教室、社交ダンス会場、高齢者による昔泳ぎ教室などが考えられる。大学のフィールドワークとして学生が利用し、地域との交流が生まれると良い。
  - 陶芸ができる講習室は、工夫すると様々な使い方があっていいのではないか。絵を描くことや、親子で日曜大工をすることもできる。また、社交ダンスのほか、フラダンスのような利用用途や、親子、三世代を対象にした事業も考えられる。
  - 社交ダンスなどのカルチャースクールや、施設に隣接する県立相原高校や相模原協同病院と連携した事業も良いのではないか。以前、この施設でお囃子を実施していた。地域にはお囃子に取り組んでいるところもあるため、年に数回発表できる機会があると良い。
  - 南区の市民健康文化センターにはステージがあり、文化的な活動の発表もできる。この施設も余裕のあるスペースをステージとするような改修も考えられ、文化的な継承につながる可能性がある。昨今、学校や地元企業は、地域での存在意義を求められるため、各種事業で連携の余地はあるのではないか。
  - この施設をプラットフォームとして、スポーツと趣味に特化したミニ図書館があっても良いのではないか。また、この施設でインターネットにより画像が共有できたり、発信できたりすると良い。e スポーツが良いのかは分からないが、楽しく運動ができ、コミュニティの形成にもつながるような、継続して行きたくなる施設になるとそれぞれの活動の幅が広がっていくのではないか。
  - 直接、e スポーツ大会をホールで開催することも考えられる。良し悪しは別として、国民体育大会や次のアジア大会の正式種目への採択が決まっている。デジタル世代やスポーツに興味のない人に、この施設の存在を知ってもらうプロモーションの役割も考えられる。
- 着衣水泳など教育的な目的や余熱利用という施設の活用を踏まえると、ほぼプールはなくなるのではないかと。後は、どのような施設でどのような使い方をするのかということになる。この施設の弱点は、余熱の供給停止によりプールの休

所がまとまった期間で必ずあることである。提案のあった文化プログラムなどの提供により、プールが休所してもこの施設を有効に使える試みができるのではないかな。

- 各委員から提案のあったイメージを共有しつつ、資料3「2施設の機能・規模」部分に、現施設の必要度を10段階で示し、改修内容や条件等をご記入いただきたい。現施設にない機能で、必要な機能があれば別途記入いただきたい。次回は、この点数等を参考にしながら、各施設を具体的にどのように変更していくべきなのかをまとめていきたい。

コンセプトの「ふれあい・交流」については、これまでの議論を通じて、どちらが適当か決定いただけるか。

- 次回、具体的な機能等を検討する中で、どちらのコンセプトが適当か検討し、最終決定することとしたい。

- コンセプトは3つあるが、実施する事業に異なるコンセプトが融合しているところに意義があるため、この3つを1つにまとめて象徴するようなものがあると良いのではないかな。

- 次回の検討委員会まで時間が空いてしまうため、普段、何かの折に触れてアイデアが思い浮かんだらメモして、次回検討委員会において披露してもらいたい。また、身近な友人等と本日の議論を共有していただき、良いアイデアがあれば、引き続き共有をお願いしたい。

### 3 閉 会

以 上

相模原市立北市民健康文化センターの在り方検討委員会 委員名簿

(令和2年11月6日開催)

(令和2年9月1日現在)

	氏名	所属等	備考	出欠
1	あさひ 朝日 ちさと	東京都立大学都市環境学部教授		出席
2	えんどう けいじ 遠藤 啓治	中小企業診断士		出席
3	こばやし みちこ 小林 美智子	橋本地区まちづくり会議委員		出席
4	さとう かねお 佐藤 金男	大沢地区まちづくり会議代表		出席
5	はらだ なおゆき 原田 尚幸	和光大学現代人間学部教授	委員長	出席
6	いわもと あきら 岩本 晃	相模原市市民局次長		出席

(行政職員を除く五十音順 敬称略)